

01.クアラルンプール新国際空港



正直、日本からマレーシアの発着空港であるこの場所を有意義に見て回れる時間は取れなかった。ただ、平面および断面計画、コンセプトを事前に確認していたため、構造と意匠的にどの様に魅せようとしている空間なのか、マレーシアと空港というものをどう表現しているのか。

細かいディールは抜きにして建築家としての思いを感じようとみてきた。ここからいくつか基本設計をした設計事務所のHPより抜粋。「この空港は“最新の技術とマレーシアの固有性の共生”の具体的表現をハイテクな造形とイスラミックな空間の共生を暗示している。」「天井の仕上げ材についてはHPシェルが直線材で構成されることから、不燃材の認定を受ける幅10cmで現地産の木材の突き板（金属板下地）の使用によりマレーシアの固有性を強調している。」「マレーシアの個性は床の御影石（主に現地産）の幾何学パターンによっても繰り返し主張されている。」「キーワードである“森との共生”」

飛行機からみたマレーシアと実際肌で感じたマレーシアの文化と建築、そして生活と宗教。建築のデザインの表現として、森との共生というテーマの通り、アクロバティックな構造体の表現、随所にみられるマレーシアを表現した仕上げ材の選定。

この空港は国際空港としてマレーシアという国を良く表現している空港だと感じた。

小見友秀